そう だい
総 題 「この最も小さい者」

だいきゅう か しんやくじだい きょうかい ほうし
第 9 課 新約時代の教会の奉仕

リュウ ジョンヒョン
柳 鍾鉉

いち あんそくにちご こんしゅう
1. 安息日午後：今週のテーマ

イエス・キリストは、大宣教命令 (マタイ 28 : 18 - 20) の中で、新しい教会共同体に関し
て触れています。

それは新しい任務のように見えますが、公生涯の中でイエスが弟子たちと一緒にすでに取り組んでおられた
使命の継続であります。

に にちようび あたら しゅるい きょうどうたい し とげんこうろくに の よんじゅうにからよんじゅうなな よん のさんじゅうにからさんじゅうなな
2. 日曜日：新しい種類の共同体 (使徒言行録 2 : 42 - 47、4 : 32 - 37)

初期の教会共同体は、福音を宣べ伝えることと、社会的に困窮して (困って) いる人たちを助ける働き
を同時しました。

特にやもめ (結婚した相手が亡くなって1人になった人) たちへの日々の食事の分配です。

このような実務的な事柄 (社会的に困っている人たちを助ける働き) をより忠実に行うために7人の人が
任命されました。

これ (7人の人が任命されたこと) は初期の教会共同体が「あなたがたのうちに貧しい者はなくなるであら
う (申命記 15 : 4)」という神の教えを真摯に (真面目に) 受け止めたことになります。

さん げつようび ほうし し とげんこうろくきゅうのさんじゅうろく
3. 月曜日：ドルカスの奉仕とあかし (使徒言行録 9 : 36)

キリストの福音を聞き、受け入れた弟子の中にヤッファの町に住むドルカスという女性がいきました。

彼女はイエスの信仰と奉仕を担う (引き受ける) 献身的なクリスチャンとして困っている人や貧しい人を助け
る働きをしました。

彼女の忠実さ (真心込めて働くこと)、行動力、他者を重視する (とても大切だと見ること) 態度は、地元
の町を越えて広く認められました。

しかし献身的な奉仕をした彼女も病気や死から免れる (病気をしない、死なない) ことは出来ませんでした。

ペトロがドルカスのために祈り、神は彼女を復活させられましたが、これは他者に奉仕するために献身する人の
場合でも、必ずしもその人生がいつもうまくいくという保証 (責任を持つこと) ではないことです。

よん かようび わ あ しゅだん ほどこ に はちのななからじゅうご
4. 火曜日：分かち合いの手段としての施し (Ⅱコリント 8 : 7 - 15)

いほうじん がいこくじん せかい ふくいん の つた かみ えら でんどうしゃ ふくいんでんどう とも まず
異邦人 (外国人) の世界に福音を宣べ伝えるために、神に選ばれた伝道者パウロは、福音伝道と共に貧しい
ひと たす はたら ちゅうじつ まごころ こ はたら ひと
人たちを助ける働きに忠実 (真心を込めて働く人) でした。

かれ ほうし いた ところ じゅうよう たいせつ てん したが つづ
彼は奉仕をした至る所 (あちこち) で、この重要 (大切) な点に従い続けました。

じっさい ほんとう ききん た もの くる きょうかい たいへんこんきゅう こま
実際 (本当に)、パウロは飢饉 (食べ物がなくなり苦しむこと) でエルサレム教会が大変困窮して (困って)

いたときに、マケドニア地方の教会を回って、募金を集めてエルサレム教会を助ける手本を示しました。

じぶん ほか ひとびと お ほどこ おも めぐ わ
パウロは自分たちや他のすべての人々に惜しまず施しを (もったいないと思わないで恵みを) 分けてあげたこと

で、神をほめたたえました。

ほうし わざ じっさい ほんとう おこな けっか くれ ふくいん じゅうじゅん こうげん
この奉仕の業が実際 (本当) に行われた結果として、彼らは、あなたがたがキリストの福音を従順に公言

すなおにみんなの前で言うこと) していること、また、自分たちや他のすべての人々に惜しまず施しを (もったい

ないと思わないで恵みを) 分けてくれることで、神をほめたたえます。(Ⅱコリント 9 : 1 3)

5. 水曜日 : 正しく生き、愛することへのパウロの指針 (ローマ 12 章)

じゅうにしょう じっさいげき ことば もち つか せいかつ
パウロは、ローマ 12 章で実際的な言葉を用いて (使って)、クリスチャンの生活がどのようなものであるかを
せつめい
説明しています。

じぶん からだ かみ よろこ せい さき
それは自分の体を神に喜ばれる聖なるいけにえとして献げることです。

かみ よろこ せい なん
神が喜ばれる聖なるいけにえとは何でしょうか？

せい かみ せいべつ じんせい
それ (聖なるいけにえ) は神のために聖別された人生です。

かみ みこころ い い かた
神の御心に生きる生き方です。

かみ みこころ い い かた しんこう きょうどうたい いちいん かみ つか しょろくのろくからはち
それ (神の御心に生きる生き方) は信仰の共同体の一員として神に仕えることです。(ミカ書 6 : 6 - 8

さんしょう
参照)

6. 木曜日 : 「義人」ヤコブ (ヤコブ 2 : 1 - 9、5 : 1 - 6 参照)

ぎぎょうだい かいぎ ぎちよう つと きょうかい しどうしゃ
ヤコブは、イエスの義兄弟で、エルサレム会議の議長を務めたエルサレム教会の指導者でした。

かれ てがみ なか どのくしゃ みことば おこな ひと たいへんきょうちよう
彼 (ヤコブ) は、ヤコブの手紙の中で、クリスチャンの読者に御言葉を 行う人になることを大変強調してい
ます。

しん うそ しんこう しん うそ おこな ともな
真の (嘘のない) 信仰は真の (嘘のない) 行いが伴うからです。

ことば しんこう じっさい ほんとう おこな しんこう かみ よろこ しんこう
言葉だけの信仰ではなく、実際 (本当) の行いがある信仰こそが、神に喜ばれる信仰なのです。

こま せわ よ けが そ じぶん まも
ヤコブは「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これ

ちち かみ みまえ きよ けが しんじん いちのじゅうなな はな
こそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」(ヤコブ 1 : 2 7) と話しました。

まとめ :

あたらし きょうかいきょうどうたい はたら もはん みほん しめ こんきゅう こま
新しい教会共同体の働きは、イエス・キリストが模範 (見本) として示されたように、困窮して (困っ

ひと たす とお あい かみ よ ただ あかし
て) いる人たちを助けることであり、それを通して愛の神をこの世に正しく証 することです。

すくぬし かな み ところ たましい せわ きょうかい た じぶん
「救い主は、悲しみに満ち、試みられている魂を世話することのできる教会を建てるために、ご自分のとう
いのち あた しんじゃ む まず むきょういく むめい ひと
とい生命をお与えになった。信者の群れは、貧しく、無教育で、無名の人たちかもしれない。しかしキリストのう
ちにある時、彼らは、家庭において、近隣において、教会において、また遠い地方において働くことができ、そ
とき かれ かに きんりん きょうかい とお ちほう はたら
の結果は永遠と同じように遠大なものとなる」(希望への光、1011ページ)
けっか えいえん おな えんだい きぼう ひかり せんじゅういち